

平成 27 年度みんなで支える森林づくり北信地域会議（第 1 回）概要

- 1 開催日時 平成 27 年 7 月 2 日（木）10 時 00 分から
- 2 開催場所 中野市大字壁田 北信合同庁舎 4 階 講堂
- 3 出席者 委員 8 人
 - ◎竹節 義孝 山ノ内町長
 - 中山 稿一 北信州森林組合長
 - 桑原 重雄 栄村森林組合長
 - 宮崎 正毅 NPO 法人北信州の森林と家をつなぐ会代表理事
 - 阿部 恵子 みどりの少年団北信地区協議会（中野市立科野小学校長）
 - 竹節 高四郎 自然公園指導員
 - 佐藤 勝志 北信猟友会
 - 笹岡 紀美雄 指導林家

※オブザーバー 中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村
北信州森林組合、栄村森林組合
- 4 開 会
 - (1) あいさつ 田中北信地方事務所長
 - (2) 委嘱状の交付
- 5 会議事項
 - (1) 平成 27 年度長野県林務部業務内容について
 - (2) 平成 27 年度長野県森林づくり県民税の概要について
 - (3) 平成 27 年度長野県森林づくり県民税活用事業計画（案）について
 - (4) 市町村、森林組合の取組方針
 - (5) 平成 27 年度長野県森林づくり県民税の広報計画について
 - (6) 意見交換
 - (7) その他
- 6 閉 会

(6) 意見交換の概要

【座長】

それでは、意見交換ということで、各委員の皆さんからの質問や意見等がありましたら適宜発言してください。

【桑原委員】

将来を担っていく子供達のための木育推進事業計画についてですが、今年は金額的にも件数的にも増えておりますので、非常によい方向だと思えます。組合としても協力していきたいと思っております。

【宮崎委員】

森林づくり支援金が減ってしまうことについて。この地域では搬出間伐が主体になってきて切り捨て間伐でない、これは方針的に決まってきたので、このまま北信は支援金が減ってってしまうのか。全体的にもそういう傾向がある中で、減らされた予算はどこに行ってしまうのか、全体予算の中でこれは配分されているのか、その辺が気になっています。200万円近くも減っているのか、この事業全体が大分削減されてしまっているのか、ということが気になります。

そして木育などもいろんな学校に広めていってほしいなと思えます。先生方が異動して「前回もやったから、これやるよ」という先生がいるところはいいですが、なかなか活動が繋がっていかない、一回やって終わり、というような部分があるので、子供達に森や山を勉強させる機会をこういう事業を使っていければいいかな、と思うところであります。

【事務局】

一点目の配分額についてですが、全県の間伐面積に対する北信の間伐面積、という割合が重点配分額の基本でございますので、もし全県の間伐面積も減っていくようでしたら基本的にこの率は変わっていかない、ということになると思われま。ただ去年は減額補正がどのように行われているか、我々も知らなかったもので、計画面積に対して実施面積が減った場合には、減額補正が行なわれるということがよく分かりましたので、今後はこのようなことが無いように、適切な計画と実行面積を確保していくことにより、マイナス補正されないように頑張っていくことで、これほど減らされることは無いと思えます。ただ、全県のアクションプランがこれからどうなっていくのか、不透明な段階で、これからの間伐計画が分からない状態でございます。いずれにせよ、北信は搬出間伐を粛々と進めていって、森林づくり推進支援金が減らされないように頑張る、ということではないかと思えます。

【佐藤林務課長】

森林づくり推進支援金が減っている、搬出間伐、切り捨て間伐も同じ評価になってきている、ということですが、今後県でも28年度に向けた会議がありますので、「これはどうかな」と思う部分やこの地域の状況を伝えていきたいと思っております。

【阿部委員】

初めてお聞きすることがあって、勉強させて頂きたいと思えます。

中野市の緩衝帯整備というのは、具体的には電気柵の設置ということでしょうか。

【中野市】

電気柵の設置ではなくて、下刈り等といった作業です。冬に山追いをやって頂きますので、勢子の安全性を確保することも狙いで下刈りを行います。

【阿部委員】

ありがとうございました。そういう整備が行われていることも知らないなので、整備して頂いているということを伝えていく必要があると思いました。

山ノ内町では植樹をするということだけではなくて、その後モニタリングをしていくということでしたけども、私たち「みどりの少年団」の活動の中にも年一回の植樹、というのがあります。貴重な体験をさせて頂いているのですが、子供達の森に対する意識やこの木がどんな風に育っていくのか、という想いを繋いでいく必要がある、ということをつつも思います。木に触れる数多くの機会や貴重な体験をさせて頂いてありがたいと思います。「木育」については学校としても継続していきたいなと考えています。

【山ノ内町】

ただ植樹するだけでは子供達に何もならないということから、小学生の低学年ではドングリからのポット苗作りをしております。中学年につきましては、この間やりました苗の山取を行いません。コメツガ等が木の下に生えています。それを今後、市川海老蔵さんと植えられるように苗畑の方に移植しまして、これも子供達と面倒を見ていきたいと思えます。そして5,6年生になりましたら、今までの経験を基に市川海老蔵さんと植樹をし、6年間の学習の成果を世間に発表していく、というような木育活動を考えております。

モニタリング調査につきましては、山ノ内中学校は教室の木質化がありますので、モニタリング対象には入っていません。その代わりに、中野西高校がユネスコスクールに加盟承認されたこと、フィールドとして志賀高原もございまして、一緒に仲間に入って頂きたいと考えています。先日6月27日の「ABIMORI 植樹祭」には、一般の参加者に植樹の方法を教える植樹リーダーとして参加して頂きました。今後、森づくりを進めていく上で、植えたものがどういう風になっているのか、何がだめで何がよいのか、というところまで調査を続けていきたいということから、ユネスコスクールの環境学習の一環として植えたもののモニタリング調査を信州大学や国際生態学センター、等と協力して行っていきたいと思えます。また必要に応じて植樹等を予定しております。

【竹節委員】

毎回同じ様なことを言っておりますけども、スギ・ヒノキ等の針葉樹はどんどん植樹されていきますが、広葉樹が枯れており本来の山の姿は無くなっているように感じられます。山がどんどん枯れていく、ドングリを実らせる木がどんどん枯れていきますので、みなさんと一緒に、更新していかなければならないと思えます。大いに森林組合に力を入れて頂いてもらいたいと思えます。

【佐藤委員】

子供達に対して木はどういうものか、森林はどういうものか伝えるのは本当に大事だと思います。特に大人が子供達に対して、というだけでなく、できれば市町村担当の皆さん、それから学校でも子供達のアイデアをもっと取り入れたりすれば、一年度の成果も大きくなるのではないかと、そんな風にも思えます。

それから、先ほど中野市のおっしゃった緩衝帯整備についてですが、この整備を行うことで、有害鳥獣が民家の方に出てこなくなるので、これも非常に重要な事業だと思います。一度整備を行うと5,6年は手をつけない、そして元に戻ってしまう。またキツネ・タヌキ・クマが出る場所になってしまう。再び有害鳥獣が民家の方に近づいていってしまう状況になる。可能であるならば一度緩衝帯整備を行った地区の皆さんと協力して手入れをし、何年か経ったら再び緩衝帯整備を行う、といった方法をとって頂けたらと思います。

私は分かりませんが、一度整備すると同じ場所は整備できないのですか。

【事務局】

今ご指摘のとおり、緩衝帯整備を行なうと5,6年で元に戻ります。

一度緩衝帯整備を行なったところで二度整備を行っていけない、というのは要綱要領を読んだ中では書いてありません。以前、緩衝帯整備を行なった場所の整備を再び行っていいのか、ここでははっきり言えませんが、もう一度勉強させていただきます。

【中山委員】

竹節高四郎委員がおっしゃるように、森林組合に対する活動要望について基本的には賛成ですが、子供達が直接木を育てる、広葉樹の育成については子供達に直接手を出してもらおう方が、「地域のため」という面からするといいのかなと思います。森林組合ならば効率よく植樹し、木を育てるやり方を知っていると思いますが、それよりは子供達や町民・市民の方々、地域の人に手を貸して頂くやり方がいいのかなと思います。

【座長】

ただいま、頂いたご意見ご要望については反映させて頂きまして、平成27年度の事業の推進をお願いしたいと思います。

それでは林務行政全般について、ご意見ご要望ご提案等ありましたらどなたでもどうぞ。

特に意見が無いようでしたら、意見交換については終了させていただきます。

会議の様子

